



JAPAN AIRLINES

ステークホルダーの皆さまとの共生を目指して

日本航空株式会社 取締役専務執行役員 財務・経理本部長 齊藤 典和

この度は運輸部門においてディスクロージャー優良企業に選定して頂き、大変光栄に存じます。これも日頃の市場関係者の皆さまからのご支援の賜物でございます。厚く御礼申し上げます。

当社は2017年4月に「2017-2020年度JALグループ中期経営計画」を発表し、私たちの目指す将来の姿として「JAL Vision」を策定しました。そして、本年2月には同計画を更に具体化した「中期経営計画ローリングプラン2018」を発表しております。この中で、

「JAL Vision」が実現したときに、私たちJALがどのような会社になっているか、を具体的・定量的に表した「グランドデザイン」を掲げており、売上高2兆円、営業利益2,500億円、時価総額3兆円という定量目標を掲げました。

「ローリングプラン2018」の策定に当たり、市場関係者の皆さまとの双方向の対話を丁寧にながけ、貴重なご意見を真摯に受け止めて財務戦略に反映させました。特に、経営資源の配分については、強固な財務体質と高い資本効率を両立しつつ、戦略的な経営資源配分を行うことにより企業価値の向上を目指すことをできるだけ具体的にお示し致しました。

また、経営の最重要課題の一つである株主還元方針については、安定的かつ予測可能性の高い配当が行えるよう、配当性向に加えて、株主資本配当率(DOE)を指標に加えております。

当社では、経営破綻の経験やそこからの反省を基に、採算意識の向上に努め、全社員の

物心両面の幸福を追求しながら、社員一人一人がお客さまのために何をすべきか、社会のために何をすべきか、を考えながら中期経営計画を策定致しました。また、SDGsを始めとする社会の課題解決も目指してまいります。

市場関係者の皆さまとの対話の基礎となる情報開示の充実は極めて重要な経営課題と位置付けており、市場関係者の皆さまとマネジメント層との直接対話の機会を可能な限り確保することに努めており、その内容を都度、取締役会へフィードバックしております。本年は、継続的な海外IRや、CEOスモールミーティング、CFOスモールミーティングの実施に加え、3月には「IR Day」を開催し、より多くの経営幹部と投資家・アナリストの皆さまが対話出来る機会を設けました。皆さまからのご意見・ご指摘は、当社にとっても大変良い刺激となり、貴重な機会となりました。

以上、安定性と成長を両立した航空会社を目指し、高い収益性と強固な財務安定性を保持しつつ、企業価値向上のために戦略的な経営資源配分を行うことで、過去の反省を活かしつつ、お客さま、株主、社会、社員などJALグループのステークホルダーとの共生を図ってまいります。

今後も、皆さまとのより良い対話の実現に向けて、情報開示の充実と質の向上に努めて参りますので、引き続きご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。